

静岡大学人文社会科学部・東華大学外国語学院学術交流シンポジウム

主催 静岡大学人文社会科学部・総合知プロジェクト「超越(トランス)の人文社会科学」

越境するヒト、モノ、言語 東アジアの事例から

Transboundary Dynamics : People, Goods and Languages in East Asia

一 日本、中国、韓国の社会的、文化的、 経済的交流の歴史的背景と展望 一

講師および報告論題

東華大学外国語学院

陳祖恩 (東華大学外国語学院特任教授)

「戦前上海にての日本企業の歴史と文化」

趙萍（同学院日本語学科准教授）

「中国帰国者の生活世界」

孫若聖（同学院日本語学科講師）

「日本における新時期文学翻訳の黎明期と黄金期」

静岡大学人文社会科学部

朴根好（静岡大学人文社会科学部教授）

「中国『ベンチャー大国』とイノベーションエコシステム」

桑島道夫（静岡大学人文社会科学部教授）

「新世紀の中国文学、変わったものと変わらないもの ―日本語に翻訳された作品を中心に―」

入場無料

入場無料

2018.2.4日

10:00-17:00 (9時45分から入場可)

静岡駅前会議室(金清軒ビル)B館301号室

静岡市葵区紺屋町8-12 金清軒ビル (JR静岡駅北口から徒歩3分)

【問い合わせ】静岡大学人文社会科学部人文社会科学部 総務係
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL (054) 238-4483 FAX (054) 237-3612



※戸田書店（葵タワー）の真向い。

A館とB館があります。B館からお入り下さい。**駐車場はありません。**

報告内容の紹介

戦前上海にての日本企業の歴史と文化

陳祖恩（東華大学外国語学院特任教授）

戦前上海には多くの日本人が暮らしていた。彼らも広い意味で「上海人」と言える。彼らの経営した多くの日系企業は上海の発展に貢献したと同時に、国際都市・上海の多元的文化構成の一部であり、上海の重要な人文的記憶及び歴史遺産でもある。激動の時代であったにもかかわらず、日系企業は上海の経済に貢献したばかりか、独特な企業文化で他国の会社にも影響を与えた。本報告は戦前上海における日系企業の発展の歴史とその文化的意義を報告する。

中国帰国者の生活世界

趙萍（東華大学外国語学院日本語学科准教授）

中国帰国者とは、1972年の中日国交正常化以降、家族とともに中国から祖国である日本に引き揚げた数多くの中国残留邦人のことである。本研究は、中国帰国者における中国での残留および生活、日本への帰国および定着、日本社会への適応および定住などの状況を考察し、中国帰国者の生活世界について検討しようとするものである。

日本における新時期文学翻訳の黎明期と黄金期 孫若聖（東華大学外国語学院日本語学科講師）

文化大革命により一時中断した日中両国の文化・文学の交流はそれ以前には長きに渡り行われてきた。文革の終焉後、1976年頃から80年代末までの間に「新時期小説」と呼ばれる中国の作家による小説が数多く生み出された。その日本語訳は1978年から86年までの9年間では合計108篇、続く1987年から95年までの9年間では合計412篇が記録されている。数量からみて、1978-86年は新時期小説翻訳の黎明期、1987-95年は黄金期であると考えられる。本報告は上記の時期区分の上に立ち、それぞれの翻訳状況の特質を検討する。

中国「ベンチャー大国」とイノベーションエコシステム 朴根好（静岡大学人文社会科学部教授）

いま、中国は「世界の工場」から「イノベーション大国」へと変貌を遂げている。キーワードは中国のイノベーションを創出するエコシステムである。中国では、ベンチャー企業が上場し、その上場企業が投資家となってベンチャーキャピタルを立ち上げ、スタートアップ企業に貢献し、次世代の分野を中心に、新しいサービスや新製品を生み出しているなど、私たちの予想を上回るスピードで加速しているからである。本研究は、中国のイノベーションを取り巻くエコシステムはどのような背景で生まれたのか、またどのような仕組みとなっているのか、について検討しようとするものである。

新世紀の中国文学、変わったものと変わらないもの

—日本語に翻訳された作品を中心に 桑島道夫（静岡大学人文社会科学部教授）

新世紀以降、中国でも村上春樹や綿矢りさ的感性を持った作家が人気である。その一方で2012年、莫言のノーベル文学賞受賞は、現代中国文学の特殊な歴史性を思い起こさせてくれた。新世紀の中国文学、何が変わり、何が変わらなかったのか—そうした問いを通して、中国に暮らす人びとの生活やこころのありようを考えてみたいと思う。